

故事成語に親しもう

年

組

番

名前

一、次の故事成語は、どのお話がもとになっていますか。線で
むすびましょう。

蛇足

* 必要のない物のこと

塞翁が馬

* 人生の不幸と幸運は
予想できない

画竜点睛

* 最後の大事なこと
ろに手をくわえて
完成させる

杞憂

* 必要のない心配を
すること

虎の威を借る狐

* 力のある者や権力
のある者の力を利用し
ていばる

むかし、酒(さけ)の入ったつぼをけらいたちがもら
った。そこで、早く蛇(へび)の絵をかき上げた人がそ
の酒をぜんぶのむことにした。さいしょにかき上げた
者は、ひまになり、蛇にはない足をつけ足してしまっ
たため、「その絵は、蛇の絵ではない。」と言われ、
二番目にかき上げた者に酒をとられてしまった。

むかし、「杞(き)」の国に、天がおち、地がくず
れたらどうしようかと思いなやみ、ねることも食べる
こともできなかつた人がいたという。

むかし、塞(とりで)の近くに住んでいた老人(翁)
は、かっている馬ににげられたが、やがてその馬は別
のりっぱな馬をつれて帰ってきた。ところが、今どは
そのりっぱな馬に乗っていた老人のおすこが馬から
おちてしまった。しかし、今度は戦争(せんそう)がお
こりわか者はみんな兵隊(へいたい)につれて行かれ
たが、老人の息子はけがのおかげで戦争に行かずにた
すかった。

虎(とら)が狐(きつね)をつかまえた。狐は「自
分は、天のかみさまからすべての動物の長になるよ
うにめいれいさされている。信じられないのなら、私
の後からついてきなさい。」と言った。動物たちは
狐の後にいる虎を見てにげたが、虎はそのことに気
がつかず、狐のことはをしんじてしまった。

むかし、中国の絵の名人が寺のかべに龍(りゅう)
をかいたが、ひとみだけはかかなかつた。「ひとみ
を入れると、すぐに龍がとんでいってしまうから
だ。」とせつ明したが、だれもしんじなかつたので、
本当にひとみをかきこむと、たちまちに龍は本物に
なり、天にのぼって行ってしまった。

二、次の会話文では、どの故事成語を使^{つか}ったらよいでしょう。

から選^{せん}んで、番^{ばん}号^{ごう}を

に書^かきましょう。

使^ばっている場^ば面^{めん}

あきとさん 「今日、漢字の宿題（しゅくだい）をやってくるの
わすれちゃった。」

なおこさん 「だめじゃない。わたしはやってきたよ。一時間も
かかったんだから。音読の宿題はわすれちゃった
けどね。」

たけしさん 「宿題をわすれたことは同じだよ。二人とも
さ。」

あきとさん 「さっきの紙きれ、まだ持っている？」

なおこさん 「『すてて』ってたのまれたから、すてておいたよ。」

あきとさん 「わあ、どうしよう。あの紙に、来週の図工で使^{つか}
いたい材料（ざいりょう）をメモしていたんだ。」

なおこさん 「ざんねん。」

とは、このことね。」

お母さん 「今日中に、部屋のそうじをしなさい。」

たけしさん 「できないよ。今日はやるのがたくさんあるん
だ。」

お母さん 「じゃあ、午後から家族（かぞく）でえい画に行く予
定（よてい）だけれど、たけしさんはむりね。」

たけしさん 「行けるよ。えい画を見る時間はとれるから。」

お母さん 「あなたの話は
しているわね。」

① 矛盾（むじゆん）話のつじつまがあわないこと

② 覆水盆（ふくすいぼん）に返（かえ）らず（ひっくり返した水がおぼんにもどらない
ように、一度（いちど）やってしまうと取（と）り返しがつかないこと）

③ 五十歩百歩（にたりよったりで、大きなちがいがなく）

「故事成語」に親しもう (答え)

一、

蛇足 だそく

* 必要のない物のこと ひつよう

むかし、酒(さけ)の入ったつぼをけらいたちがもらった。そこで、早く蛇(へび)の絵をかき上げた人がその酒をぜんぶのむことにした。さいしょにかき上げた者は、ひまになり、蛇にはない足をつけ足してしまつたため、「その絵は、蛇の絵ではない。」と言われ、二番目にかき上げた者に酒をとられてしまった。

塞翁が馬 さいおう

* 人生の不幸と幸運は予想できない ふこう こううん

むかし、「杞(き)」の国に、天がおち、地がくずれたらどうしようかと思いなやみ、ねることも食べることもしなかつた人がいたという。

画竜点睛 がりようてんせい

* 最後の大事などころに手をくわえて完成させる さいご だいじ

むかし、塞(とりで)の近くに住んでいた老人(翁)は、かっている馬ににげられたが、やがてその馬は別のりっぱな馬をつれて帰ってきた。ところが、今どはそのりっぱな馬に乗っていた老人のおすこが馬からおちてしまった。しかし、今度は戦争(せんそう)がおこりわか者はみんな兵隊(へいたい)につれて行かれたが、老人の息子はけがのおかげで戦争に行かずにたすかった。

杞憂 きゆう

* 必要のない心配をすること しんぱい

虎(とら)が狐(きつね)をつかまえた。狐は「自分分は、天のかみさまからすべての動物の長になるようにめいれいされている。信じられないのなら、私の後からついてきなさい。」と言つた。動物たちは狐の後にいる虎を見てにげたが、虎はそのことに気がつかず、狐のことばをしんじてしまった。

虎の威を借る狐 とら いをか ぎつね

* 力のある者や権力のある者の力を利用していばる けんりよく

むかし、中国の絵の名人が寺のかべに龍(りゅう)をかいたが、ひとみだけはかかなかつた。「ひとみを入れると、すぐに龍がとんでいってしまうからだ。」とせつ明したが、だれもしんじなかつたので、本当にひとみをかきこむと、たちまちに龍は本物になり、天にのぼっていってしまった。

二、 (右から) ③

②

①